



「できる」ことは素晴らしい。でも、「できるようになる」ことには、もっと嬉しさがあります。運動会、陸上記録会、学習発表会……。どの学校にもある、そして毎年当たり前のように繰り返される行事が色あせないのは、その時にしか見られない子どもの成長があるからです。

こうしてやさしくなっていく

5月から始まった長縄跳び(8の字跳び)に、1年生は最初、苦戦していました。入るタイミングが分からない。縄が怖くて入れない。でも、そんな1年生に、上級生はやさしく関わってくれました。

色別チームに分かれて、記録に挑戦してきましたが、その過程で「あーあ、つまった…」「〇〇さんが失敗せんかったら最高記録が出とったのに…」という声は、一度も聞こえてきませんでした。

「おいしい!」「いける、いけるよ!」「そうそう、もうちょっと。」「やったー! 跳べた!」

周りの声に励まされて、1年生がいつの間にか跳べるようになっていました。



上級生も、昔は1年生でした。縄に入れない経験があったはず。そして、学年が上がり、毎年1年生を迎えながら、できなかった頃の自分を思い出している。その時に励ましてくれた言葉を覚えている。だから、同じように1年生にやさしく接することができるのでしょ。う。

2月5日、校内縄跳び大会がありました。優勝チームもあれば、もちろん優勝できなかったチームもありました。

負けず嫌いの1年生が、結果発表の後、悔しがりました。すぐに6年生数人が近寄り、「じゃ、4人でもう一回大会しようか。」と声を掛けてくれました。別の子は、自分たちがもらったトロフィーをその子に渡しました。それでも悔しさは収まりませんでした。

でも、いつかはこの1年生も気付くはず。そして、他の人よりも、もっと人の気持ちの分かる人になるはず。こんなやさしさを、特別にもらっているのですから。

普段とちがう姿がもつ魅力 ~自慢大会第2弾 経過報告~

自慢したいことがたくさんあるでしょう。2学期に引き続き、児童会の強い要望で自慢大会が実現しました。2月5日から3回に分けて開催されています。

授業でも、休み時間でも見られなかった姿——特に、知らないところでその子がずっと頑張っている姿。その姿が大きな感動を届けてくれます。そして、まだ何を秘めていそうな期待感。成長途中の子どもたちには、その期待感がたくさんあります。

